

ホーム光配信への取組について

日本アンテナ(株)

沼尻好正

20170419

基本的な考え方について

現状のテレビ放送(地上・衛星)ホーム受信システムは同軸方式が主に採用されています。

ホーム受信システムの設計においては、選択可能な機器バリエーションならびにコスト面が重要視されています。

しかしながら、左旋での衛星放送の開始に伴って、IF周波数が高くなり既存システムとの共存が議論のテーブルに上がってきた経緯を重く受け止めるものであります。

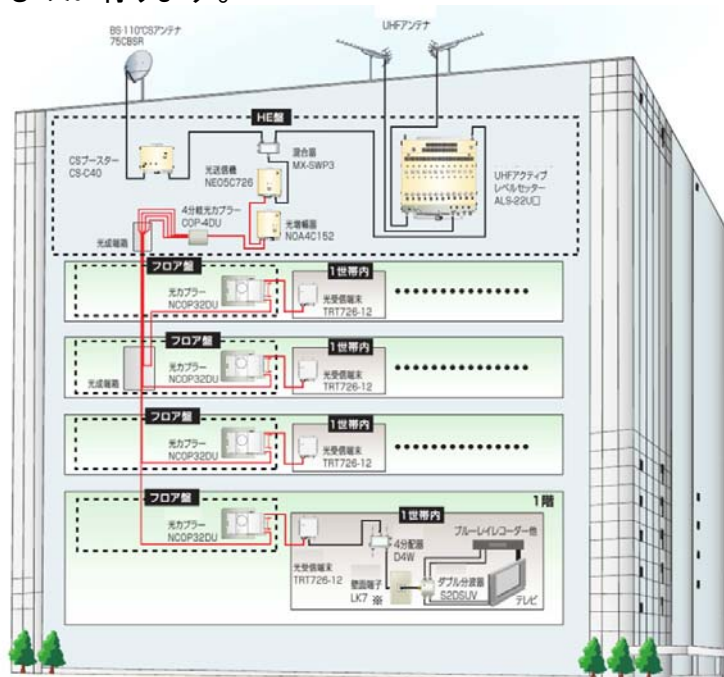
共存を成立させる最良の方法としては、受信システムならびに受信システムを構成する機器からの干渉電波放射が、極限まで最小化される事で解決策は見いだせると思いますが、現実的には機器の供給・販売価格変動等が想定されますので、対応へのハードルが高くなることが一般的な認識です。

ホーム受信システムにおいて、集合住宅で採用の実績が有ります「光配信方式」をホーム受信システムへ普及させる事が出来るとすれば、課題となっています共存条件が解決できるとも考えられます。

「光配信方式」での、ホーム受信システム検討は具体的な検討段階には入っていません。

ホーム対応のための光システムについて

現在、共聴システムで採用されている、光ケーブル受信システムは以下のようなものが有ります。



集合住宅対応での
光送信機・光増幅器では
百万円オーダーの価格となる
ことが想定されます。



ホーム対応の為には
低廉化の検討が必要

ホーム対応のための光ケーブルについて

光ケーブルの選定
光ケーブルコネクタの選定
光ケーブルの加工
光ケーブルの施工取扱い
作業者スキル等



課題抽出
課題解決



今後の進め方について(案)

ホーム受信システム機器の設置においては、購入者がDIYで作業するケース(個人購入・設置・調整)を視野に入れた検討が無視できない。しかしながら、光ファイバーの取扱いにおいては、一般消費者が対応できる状況にないので、簡易・簡便な取扱い、敷設が出来る光機器の開発が重要と考える。

同様に敷設業者が行う作業についても、高度なスキル習得を要しない設置を実現することも必要となる。



普及を目指すのであれば、極限まで簡便化を検討して専用工具を使用しない配信方式、光ケーブル選定の検討が重要。